

III 人類学の立場から

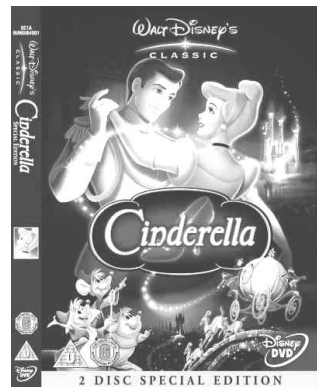
ローラ・ミラー Laura Miller

(アメリカ) ロヨラ大学シカゴ (Loyola University Chicago) 人類学部教授。言語人類学および現代日本研究専攻。日本とロシアでフィールド調査の経験がある。研究関心は、言語イデオロギー、大衆文化、メディア・言語におけるジェンダー表象など。この講演のもととなった研究は“Japan’s Cinderella Motif: Beauty Industry and Mass Culture Interpretations of a Popular Icon” (*Asian Studies Review*, Vol.32, Issue 3, 2008. p393-409)。著書に *Beauty Up: Exploring Contemporary Japanese Body Aesthetics* (University of California Press, 2006)、*Bad Girls of Japan* (Jan Bardsley と共編、Palgrave MacMillain Press, 2005) など。ぶりっ子やコギャルなどについて論じた研究もある。

私は現代日本社会を人類学の視点から研究している。以前に、マンガや雑誌に出ている画像を使って日本人の身体に対する理解について調査したこともある。大衆文化を研究しているので、大事なポイントではどうしても画像が必要になる。

最近の例を紹介すると、現代日本社会におけるシンデレラの意味の研究がある。ディズニーのアニメやラブストーリーの画像など、シンデレラのイメージがどのように使われているかを分析するものである。

日本の場合、シンデレラについては興味深いことがいろいろある。シンデレラは、ラブストーリーより、変身を遂げることと受け止められている。たとえば、誰でもきれいになったら「シンデレラになれる」、つまり変身して幸せになる、というイメージがあり、美容コンテストがシンデレラの名前をつけて行われている。



ウォルト・ディズニー・クラシック『シンデレラ』DVD版のカバー

ここには王子様の顔が全然出てこない。つまり、この場合には「シンデレラ」は個人的な変身コンセプトとなっている。



たかの友梨エスティックシンデレラ大会 1996年グランプリ獲得者

個人的な変身というコンセプトを追ってみると、これは高橋佳子の書いた『運命の方程式を解く本』のカバーだが、「シンデレラのその後！？ 幸せになったはずのシンデレラ。でもその後の運命は・・・」と書かれている。幸せに結婚してもいろいろなことが起こりうる。お城に住んでいるシンデレラがいやな女に変わることもある、と暗示している。むしろそこには王子様の顔が見えない。

ほかにもいろいろある。「シンデレラになりたい！」というこのテレビドラマは、ハンバーガーショッ



高橋佳子『運命の方程式を解く本』(三宝出版、2007) カバー



TBS『シンデレラになりたい!』完全版 DVD のカバー

ブに勤めている不細工な男が変身できる薬を手に入れイケメンに変身する話だ。ガラスの靴を履けない男の子も変身できる、というキャッチコピーで、憧れの美しい姿はシンデレラと呼ばれる。日本ではシンデレラは女性とは限らないのである。

他にも、「空のシンデレラ」というコミックでは、かわいい労働者が二人の男と出会って貧乏な生活の代わりにシンデレラの生活に変わる、というストーリー。ボーイズラブというジャンルのようだ。

日本ではこのように、「シンデレラ」のイメージはいろいろなものに「変身」している。大衆文化にとっては興味が尽きないテーマである。

私のいるロヨラ大学には、日本語ができる人が殆どいない。それでイメージを出版に利用するために自分で手紙を出すのが、往々にして答は待ちぼうけ。出版社の住所がわかっても適切な住所かどうかわからない。出版社と連絡がとれても、編集者が心配してコンタクトしてくることがある。「この画像を出したら日本人が変だと思われないか」「論文にこんな画像を使うのか」などなど。法律的問題より内容に対する価値判断によって、論文への引用を許可されないことがある。

このように大衆文化を研究する学者には、画像は本当に重要で、欠かせないものである。この点を是非、良く理解していただきたい。



美輝妖『空のシンデレラ』（オークラ出版、2003）のカバー